住まいにまつわる本

映画やドラマを見ていると、間取りやインテリアが気になってしまう、ということはありませんか。今日はそんな方におすすめ、住まいにまつわる本をご紹介します。

1 冊目は、WOWOW「映画の間取り」編集部/著『映画の間取り』です。
オン眉前髪のヒロインが印象的なフランス映画『アメリ』の部屋は、壁紙もインテリアも赤で統一。真っ赤な部屋なんて落ち着かない、と思いますがユーモアあふれるキュートなヒロインにはぴったり。物語の背景や主人公のライフスタイルが反映された部屋が掲載されている本書は、他にも『恋する惑星』でフェイ・ウォンが忍び込んだ香港・重慶のマンションや、『魔女の宅急便』のキキの部屋などが印象的なモノローグとともに紹介されています。

2 冊目は、東京 R 不動産/編『団地のはなし』です。
この本は、マニアックな物件を紹介したり、斬新なリノベーションを手掛ける東京 R 不動産が、「団地」に注目し、団地の魅力を伝える短編集です。団地を舞台にした小説、団地の可能性を考察する対談のほか、フォトエッセイや漫画などビジュアルコンテンツもたっぷり。団地といえば、直方体の箱が規則的に並んだような外観、鉄筋コンクリート造で、色は白か灰色…無機質で画一的なイメージがありますが、ノスタルジックでレトロな雰囲気がちまたで人気のようです。同じ広さ、同じ間取りでも、住む人が違えば、全く違う暮らしが広がるめくるめく団地の世界が詰まった 1 冊です。

3 冊目は、宮脇壇/著『日曜日の住居学』です。
建築家には集合住宅や公共施設、都市計画などいろいろな専門分野がありますが、著者の宮脇壇は住宅設計を専門とし、住まいに関するエッセイを数多く残しています。この本では、住み心地に焦点をあて、いい住まいとはどんなものか、建築家の視点で語られています。古くてもなんだか落ち着く空間もあれば、新しく広々としていても人を落ち着かない気分にさせる住まいもあります。住まいに求めるものは、人それぞれ。著者は画一的な間取りや設計を嫌い、住む人の要望を重視した設計にこだわりました。生活を住まいに合わせるのではなく、ライフスタイルに合わせた住まいについて考えてほしいと言います。これから住宅を取得しようとしている方はもちろん、今の住まいを見直すきっかけにもおすすめの 1 冊です。

今日ご紹介した本のほかにも、住まいにまつわる本を 9 月 1 日から 1 か月間、「今月の本」コーナーで特集します。気になった方はぜひお手にとってみてください。